

「家族ふれあいキャンプ」
 ～自然体験活動を通して、親子の絆を深めよう～

平成 24 年 8 月 25 日（土）～26 日（日）1 泊 2 日



I 事業の背景（必要性）

国立青少年教育振興機構の調査報告によると、子どもの頃に自然体験や友だちとの遊びなどの体験が豊富な人ほど、物事に対する関心・意欲や社会的規範意識が高くなる傾向があり、今後、自然体験を含む様々な体験を通して、地域や家族とのかかわりを推進していく取り組みを充実していくことが重要であるとしている。

しかしながら、核家族化や都市化の進行に伴い、地域での異年齢交流や自然体験が減少しており、問題視されている。

そこで、普段、キャンプやハイキングなどに出かけることがない家族を想定し、「キャンプ入門」的な機会を提供することとした。自然の中で遊んだり、生活したりすることの楽しさを親子で一緒に味わうとともに、親子がふれあい、絆を深めること、そして、保護者の方に自然体験の大切さを改めて認識してもらい、今後、子どもたちに豊富な体験をさせようという意識を持ってもらうことをねらい、本事業を企画した。

II 事業の概要

1. 趣 旨

親子でテント泊や野外炊事などの自然体験活動を行うことを通して、自然体験活動に関心を持つとともに、自然の中で家族とふれあい、絆を深めることの大切さを再認識することを目的とする。

2. 参加者

(1) 対象・募集人数

小学生（1～6年生）とその家族 15 家族 50 名

(2) 参加状況

<内訳>

<参加地域>

人 数	男 子	女 子	合 計
1 年 生	5	3	8
2 年 生	1	2	3
3 年 生	4	0	4
4 年 生	0	3	3
5 年 生	1	2	3
6 年 生	1	0	1
保 護 者	12	13	25
幼 児	2	3	5
合 計	26	26	52

	家 族 数	人 数
御 殿 場 市	1	3
裾 野 市	1	4
清 水 町	2	6
沼 津 市	8	29
焼 津 市	1	2
東 京 都	1	4
兵 庫 県	1	4
合 計	15	52

(3) 広報の方法

- ① 募集チラシを作成
- ② 昨年度、親子を対象に実施した「家族とふれあうウォークキャンプ」では、募集チラシを作成し、御殿場市と沼津市の全児童に配付した。今回は、募集人数がテントの設置可能数で限定されることや費用対効果を考慮し、御殿場市及び近隣（JR 御殿場線沿線）の小学校に絞り、1学級あたり10枚の割合で学校ごとに配付した。
また、中央交流の家が今年度新しく開設した「体験ナビ」に募集チラシを掲載した。

3. 日 程

25日 (土)	13:00 13:30 14:00 15:45 18:45 20:00 21:00										
		受付 開会式	レクリエーション	野外での生活ガイド ・テント張り実習 (休憩を含む)	(米飯とホイル焼き) 自炊	(雨天・キャンドルのついで) キャンピング ファイアー	就寝準備	入浴	就寝		
26日 (日)	7:00 8:00 9:00 13:40 14:00										
	起床	自炊(サンドウィッチ作り)	テント解体 ・荷物整理	フード・ハンティング・ラリー ・野外炊事(手作りピザ)	閉会式 解散						

4. 内 容 (活動の様子)

(1) 「レクリエーション」

緊張感をほぐし和やかな雰囲気作りをするとともに、家族で楽しくふれあう場としてレクリエーションを行った。内容は

- ① 「準備体操」(親子で向かい合って、鏡のように同じ動きをしながら体操する)
- ② 「手押し相撲」
- ③ 「高い低い」(親子で向かい合い、相手と同じ・反対の動きをする)
- ④ 「キャッチ」(家族で1つの輪になって左手はパー、右手は人差し指を出して隣の人の左手の上に置く。「キャッチ」の合図で、指をつかむ。)
- ⑤ 「ジャンケン列車」
(ジャンケンで勝った者の後ろにつながっていくゲーム)



【手押し相撲の様子】

(2) 「野外での生活ガイド・テント張り実習」

- ① 当交流の家で使用している「野外活動での応急処置について」の資料を使って、出血・虫さされ・熱中症・鼻血・やけどなどの応急処置の仕方を紹介するとともに、止血をする際に押さえる動脈の位置を実際に親子で確認し合った。
- ② 所員が説明しながら実際にドーム型簡易テントを組み立てる様子を紹介し、その後、家族ごとにテント張り実習を行った。5家族は、そのまま自分たちが立てたテントに宿泊した。

(3) 「野外炊事」

- ① 夕食は3種類のお米から1つを選び、自分たちで火をおこして、羽釜で炊く体験をした。家族の絆を大切にするため、炊事はすべて家族単位で実施した。
- ② 朝食はセルフサンドを作るとともに、日常の生活では使わないガスバーナーで温めたお湯で、それぞれ飲み物を用意した。



【野外炊事の様子】

(4) 「キャンプファイアー」 講師：立道 由弘 氏（中央交流の家 地域指導者）

立道さんをエールマスターに迎え、歌やダンスで楽しい時間を過ごした。赤々と燃えるファイアーを囲み、親子で過ごした時間はとても貴重な体験となった。

(5) 「フード・ハンティング・ラリー」 & 「ピザ作り」

【フード・ハンティング・ラリーとは？】

「ハンティングマップ」（施設内の地図）と「指令書」（施設内のある場所を表す写真）をたよりに食材カードを探し、手に入れたカードと本物の食材を交換することができるラリーゲームです。

- ① 昼食のピザ作りの食材を手に入れるため、家族で施設内を探検し、食材カードを探した。探検の前には、家族の絆を深める場として、作戦タイムをとった。
- ② 時間になったら、見つけた食材カードを本物の食材に交換し、家族ごとにピザ作りをした。



【ピザ作りの様子】

5. 評価

(1) 評価の方法

保護者（各家庭ごと）、参加小学生（全員）にアンケートの実施

(2) 結果

①保護者アンケートの結果（対象：15家族）

ア) 事業全体を通しての満足度

満足・・・・・・・・・・10家族（67%）

やや満足・・・・・・・・・・5家族（33%）

- ・自然の中での生活を満喫できた（学校でできない体験ができた）。
- ・キャンプ初心者でも、親子で無理なく楽しめる内容だった。
- ・時間が短く、忙しく感じる場所があった。
- ・夕食のメニューをもう少し充実して欲しい。

イ) 自然体験活動の良さや楽しさを味わえたか。

とても味わえた・・・・・・・・7家族（47%）

味わえた・・・・・・・・・・7家族（47%）

あまり味わえなかった・・1家族（6%）

- ・自然の音・空気にふれられた。
- ・不便なテント泊というイメージだったが、予想以上に楽しめた。
- ・ピザ作りは子どもだけでなく大人も良い経験になった。



- ・この土地や風土の特徴を味わう機会を増やしてほしい。自由時間があるとよい。
- ウ) テント泊や野外炊事などの自然体験活動は、家族の絆を深める機会になったか。
- とてもなった・・・ 8家族 (54%)
 - なった・・・ 6家族 (40%)
 - あまりならなかった・・・ 1家族 (6%)
- ・テントという狭い空間がわくわく感を高め、家族でもよい交流ができた。
 - ・野外炊事は、親子で協力して調理したり片づけをしたりできたので、とてもよかった。普段の生活と違って、子どもが自分から活動(手伝いなど)している様子を見て、成長しているなど実感できた。
 - ・今までしたことがない体験を家族みんなですることが、とても良い思い出になった。
 - ・いつも通り、子どもに注意をしてしまった。

初心者向けの内容であったことが親子で一緒に活動する場を多くし、家族の絆を深める場となった。また、普段と違う環境が子どもの活動意欲を高める結果となった。家族の実態に合わせ、時間に余裕をもって取り組める場の設定が望まれている。

②参加小学生アンケートの結果 (対象：22名)

ア) 今回のキャンプは楽しかったか。

- とても楽しかった・・・ 21名 (95%)
- まあまあ楽しかった・・・ 1名 (5%)

※フード・ハンティング・ラリーは全員が「とても楽しかった」と回答。

【もっとも心に残ったこと (2つまで選択可)】

- ・家族でテントに泊まったこと・・・ 11名 (50%)
- ・野外(外)で食事を作ったこと・・・ 8名 (36%)
- ・ドラム缶でピザを焼いたこと・・・ 4名 (18%)

イ) 今回のキャンプで感じたこと (今までの生活と比べて)

質問の項目	とても そう思う		まあまあ そう思う		あまり そう思わない		まったく そう思わない	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
①お父さんやお母さんとたくさん話げできた。	12人	55%	10人	45%	0人	0%	0人	0%
②野外(外)での活動が好きになった。	16人	73%	6人	27%	0人	0%	0人	0%
③いろいろなことにチャレンジできるようになった。	12人	55%	9人	41%	1人	4%	0人	0%
④知らない人にもあいさつができた。	11人	50%	8人	36%	3人	14%	0人	0%
⑤自分でできることが増えた。	15人	68%	7人	32%	0人	0%	0人	0%

全体を通して、自然体験活動の楽しさを味わうことができた。また、親と一緒に活動し、家族と会話をしたりふれあったりする中で、自ら挑戦しようとする意欲が高まり、結果として自分でできることを増やすことができた子がいた。

Ⅲ 事業の企画と運営

1. 企画のポイント

- ① アウトドア初心者の家族でも安心して参加できるよう、野外炊事ではあまり時間を掛けずに作れるメニューとした(食事はすべて自炊)。
- ② 参加者の緊張をほぐすため、野外活動の前にアイスブレイキングを取り入れた。

- ③ 家族の絆の大切さを感じることができるよう、閉会式の際に家族写真と子どもからのメッセージを入れてパウチをかけたものを、子どもたちから保護者へ手渡す場を設定した。

2. 運営のポイント

(1) 社会教育実習生の活用

社会教育実習等の実習生9名に家族支援とマネジメントの2つの役割を割り振り、運営をした。マネジメントスタッフが活動の準備・片付けを行うことで、参加者の活動時間を確保した。

(2) 家族支援の心構え

家族で活動している場を大切に、安全・安心を提供することを中心に支援を行うようにした（家族の活動のじゃまをしないようにする）。

3. 指導のポイント

当日配布のしおりには、羽釜を使ったお米の炊き方やテントの張り方などを写真や図入りで紹介し、自分たちで活動できるようにした。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ① 対象者をアウトドア初心者と想定し、親子で自然体験活動を楽しめるような内容に設定したことで、親子で一緒に活動できる場を増やすことができた。一緒に活動する中で、子どもは親のすごいところ、親は子どもの成長したところに気づくことができた。
- ② 社会教育実習生を含めスタッフ全員で事前打ち合わせをし、役割分担をしたことで参加者は安全に活動することができた。
- ③ 閉会式では、活動の様子を写した写真に子どもから親に向けたメッセージをつけたものを、子どもから親へ手渡す場を設定した。家族でキャンプを振り返り、笑顔で談笑する姿が見られた。本事業のねらいとする家族の絆を深める上で効果的であった。

(2) 課題

①場の設定について

- ・ 家族単位で行うため、スペースや用具は余裕をもって準備しておく必要がある。
- ・ 小さな子どもが参加することを考え、さらに時間的な余裕をもったスケジュールにする等の工夫が必要である。

②参加者への案内の仕方について

- ・ 事前の準備に不安がなくなるよう具体的な案内を早めに知らせる必要がある。
- ・ ときには失敗から学んだり、自ら気づいたりすることが体験活動の良さであることを事前説明で話していく必要があった（野外炊事で失敗を恐れ、何度も細かな質問をする家族がいた）。

③スタッフ・実習生と参加者のかかわり方について

- ・ 参加者からは実習生が子どもの面倒をみてくれたことに対する感謝の言葉が多くきかれた。安全面を中心に支援するよう事前の打ち合わせで確認したが、今後、家族内のかかわりを深める支援として適切な方法はどうか、検討する必要がある。